

# 患者をサポートする 医療ソーシャルワーカー

多様化する医療福祉の専門家

病气やけがで入院すると、目の前の治療のことだけでなく、経済的な問題や退院後の問題などいろいろな不安に襲われる。そんなとき相談に乗ってくれるのが「医療ソーシャルワーカー」だ。東京ベイ・浦安市川医療センターで働く医療ソーシャルワーカーにその仕事や、市川・浦安の地域医療について話を聞いた。

ソーシャルワーカーとは生活する上で困っている人や不安を抱えている人に対して福祉に関するさまざまな相談に応じ、問題解決にあたる専門職の総称。中でも医療機関で相談を行っている人を「医療ソーシャルワーカー」と呼んでいる。地域の救急医療の拠点である東京ベイ・浦安市川医療センターでは、治療や入院に伴う経済的な相談や、医療処置が終わった後の、リハビリや療養に関する相談が多いという。同院の場合、主治医が支援が必要と判断した場合に、患者を医療ソーシャルワーカーへとつなげている。

若い人の場合は経済的な相談が多い。治療内容によっては医療費が高額になることもあり、入院

による休業保障や医療費助成などの申請方法を助言したりするという。高齢者の場合は、退院後のリハビリ施設や、治療後の療養病院への橋渡しを行う。必要に応じて時には、地域のケアマネージャーの紹介や介護保険についてなど、在宅介護に向けた支援を提案することもある。

同院の医療ソーシャル

ワーカーの青木さんは「退院後どうしますか？と言われても患者さんはどうしていいかわからない。だから、『こんな方法がありますよ』といくつかの選択肢を提示すると、患者さんも考えやすくなるんです」と話す。同じく正岡さんは「患者さんにとって何が一番大事なのか、経済面なのか、利便性なのかを話し合いながら最適な方法を見つけていきます」と語る。また正岡さんは、「最近が高齢者の単身世帯も増えてきており、相談する家族がいらないという患者さんもいます。そういった患者さんには地域のソーシャルワーカーと連絡をとって退院後の不安を少しでも取り除きたい」と言う。

2面へ続く

コミュニティー・ペーパー 行徳新聞 / 浦安新聞 / 葛西新聞

2014年9月12日(金)版 掲載記事(1面～2面)

発行元：株式会社明光企画 様転載ご承諾済み

1面から

医療と地域福祉との橋渡しになる医療ソーシャルワーカー。同院の藤谷茂樹センター長は「医療

ソーシャルワーカーが患者の社会的な面をサポートしてくれることで、医師は治療に、看護師はケアに専念することができるので、病院にとってもメリットがある」と話す。必要があれば医師からの説明が行われる時に患者と同席して難しい内容をわかりやすく説明することもある一方、医師



藤谷茂樹センター長

や看護師には患者の置かれている社会的な側面を説明し、より患者にあった医療を行うサポートをしている。

正岡さんも青木さんも医療ソーシャルワーカーの認知度が低かったところから働く「草分け」的存在。マニュアルもない中、自分たちで一つひとつ勉強し、地域医療や介護体制について常にアンテナを張り、情報を収集している。

現在、近隣にはリハビリ病院は少なく、江戸川区や船橋市の施設を紹介することが多い。また療養型の病院も少ないのが現状だ。近ごろ在宅介護や在宅ケアについて見聞きにするようになり、介

護保険も充実してきているが個々の事情は異なり、必要とするサポートもさまざま。青木さんは「退院した後の選択肢をもっと増やしていければ」と話す。

最後に医療ソーシャルワーカーについて正岡さんは「もっと人数が必要なんです。そのためには患者さんにも病院にもメリットがあることを私たちが活躍することで示していきたい」と語った。青木さんは「ここは病院なので本当はご縁がない方がいいのですが、いざというときは医療ソーシャルワーカーという存在を思い出してください」と話してくれた。

コミュニティー・ペーパー 行徳新聞 / 浦安新聞 / 葛西新聞

2014年9月12日(金)版 掲載記事(1面～2面)

発行元：株式会社明光企画 様転載ご承諾済み